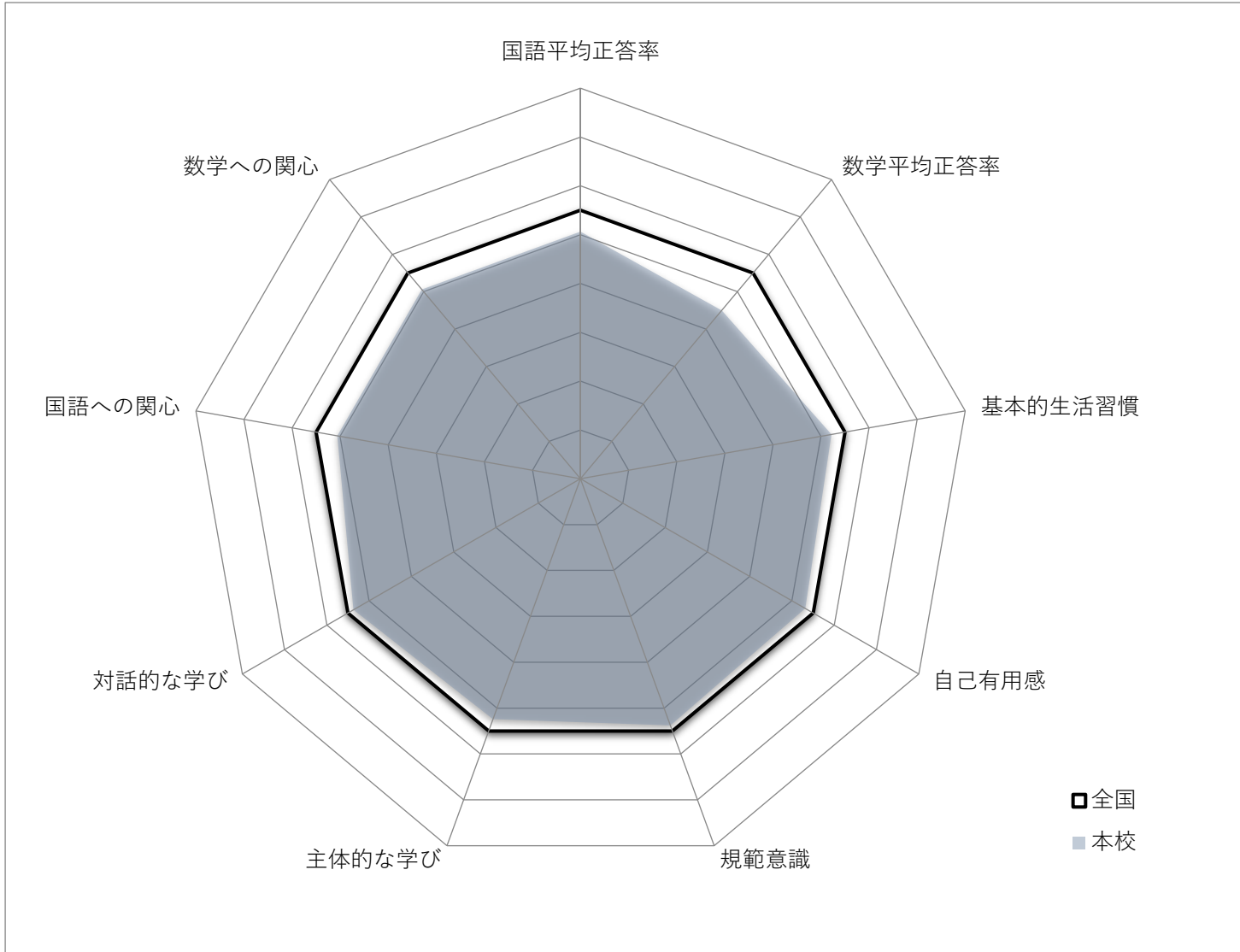


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

両教科ともに全国平均正答率を下回っている。以下、数値は対全国平均の割合。
 【国語】「国語の大切さ」は理解し(93.9)、また、「社会で役立つ」とわかっている(90.6)ものの、「好き」と感じている生徒が少ない(64.3)。
 【数学】「数学の大切さ」は理解し(87.2)ているものの、また、「社会で役立つ」実感がやや低く(78.5)、「好き」と感じている生徒も少ない(57.2)。

《授業改善のポイント》

【国語】学習意欲が高まるよう、①導入段階で見通しをもたせ、②教材の面白さを生徒同士で確認し合う時間を確保し、③達成目標(ゴール)を単元ごとに明示する。また、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えながら文章を書く機会を多く組み込む。
 【数学】数学には実利的なツールという側面だけでなく、問題を整理したり、論理的に思考・説明するなど、大切な社会的資質の育成に関係があることを理解させる。また、別解や多解の意味を具体的に事例を示しながら理解させる。そのうえで問題演習に多く取り組む際には、わからなかった場合でもあきらめずに他の方法を試す資質を育てていく。

《チャートの特徴》

基本的な生活習慣、自己有用感、規範意識、主体的な学び、対話的な学びの各領域については、全国平均を上回っていないものの、大きな差は認められない。
 ただし、各教科への関心が低く(国語も数学も対全国平均91%)、このことが正答率の低さの要因となっている可能性が高い(対全国平均、国語91%、数学80%)。

《家庭・地域への働きかけ》

本校の現状及び課題について、三者面談や保護者会、学校だよりなどを通じて認識してもらい、家庭学習の大切さを理解させ、学習時間の増加や、学習環境の改善などを呼びかけ、定着を図る。